

東日本大震災から学ぶ～進むこと守ること～

学んだこと・感じたこと

- ①原発災害の悲惨さ →
 - ・請戸小学校：津波の恐ろしさを実感
 - ・福島第一原子力発電所：廃炉の遅れに衝撃
 - ・中間貯蔵施設：将来に残る負の遺産を実感
- ②保存の大切さ → 双葉町散策：人の暮らしを感じなかった
- ③立場の違い → 語り部講和：取り出したデブリの量への認識の違い『**デブリ1gの捉え方**』科学技術者 vs 住民



①請戸小学校 ②双葉町散策 ③原子力災害伝承館



課題意識

- ・福島が十分に理解されていないという問題。
- ・私たち自身も研修などを通して伝え、対話し、考え続ける中で「知っているつもり」から「考え続ける理解」へと変わった。
- ・3.11を経験していない世代が増え続けていく
⇒当事者でない第三者が福島の課題に向き合うために『知る』こと、『考え続ける』ことが不可欠。
では、「知る」ためには何が必要か。私たちなりに提言を考えた。

提言①：福島を訪れる機会の提供

I スタディツアー

東日本大震災を単なる過去の出来事とせず、福島の「今」を知る機会を確保し、理解を促進する目的

1. 自分事として捉える大切さを知る
2. 次世代への継承と風化防止への貢献

- 例
- ・原子力災害伝承館
 - ・楢葉遠隔技術センター
 - ・ふくしま三名湯



中間貯蔵施設への訪問



福島県観光地図

II 交通整備

交通手段を設け、震災関連施設に訪れやすくする

→ 福島を訪れる人を増やす

- 例) 町間をまたいだバスの設置 (停留所は関連施設や駅)
- ・レンタサイクルや電動キックボードの設置
 - ・関連施設をつないだ自転車道の整備
 - ・既にあるふくしま浜通りサイクルルート、ふくしま浜街道トレイルの宣伝



ふくしま浜通りサイクルルート

提言②：福島について学ぶ機会の提供

I 遺構の保存 -リアル-

『一戸一戸を伝承館に』

- ・現在の震災遺構を**一部を残して**補強・再建そこに宿舎や店、テナントを設ける
- ・残された遺構に説明書きや資料室を設ける
- ・全国から「**館員**」を呼び、語り部役を担ってもらう



双葉町の消防団旧屯所

震災時消防車が強行突破したシャッターが残る

II 遺構の保存 -科学技術-

遺構の保存では耐震性や維持費、現地の人のフラッシュバックなどの課題が残る。→ARを併用し、遺構を保存する。

AR(拡張現実)・・・

実世界にデジタル情報を重ねて表示する技術のこと

例) 遺構、あるいはその跡地にデジタル端末をかざすと、3Dで当時の景色が映し出される

インターネット上では感じ得ない、現地の様子や人々を知る機会の提供
+
現地の人々への負担が少ない街づくり

まとめ

福島の課題を解決するためには、まず全員が現状を「知る」ことが必要だと感じた。
福島の現実について理解し、他者との「対話」を重ねることが、より良い未来に進むこと、
福島の人々の思いを守ることにつながる。

問題解決

行動
対話
知る